平成29年度　北九州市立　青山小　学校・園　学校評価報告書（自己評価）　〈様式　1〉

学校教育目標	豊かな人間性をそなえ，主体的で確かな実践力をもつ児童の育成

《本年度の重点目標》

《重点目標1》　児童に勉強をしっかりと教え，実態に応じた学力をつける。
《重点目標2》　児童の運動量を確保し，体力をつける。
《重点目標3》　規範意識を育て，やさしく自己有用感の高い児童を育てる。

◆記入にあたっての留意事項
- ○　取組については，各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- ○　「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には，次の６点をいずれかに必ず位置づけること。
  ①学力向上に関する取組　②体力向上に関する取組　③心の育ちに関する取組
  ④いじめ問題解決に関すること　⑤特別支援教育推進に関すること　⑥あいさつ日本一に関すること
- ○　小・中学校においては，①学力向上に関する取組，②体力向上に関する取組，③心の育ちに関する取組の部分の記述について，スクールプランと整合性を取ること。
- ○評価の例　A…目標を十分に達成できた　B…目標をほぼ達成できた　C…あと少しで目標が達成できた　D…目標達成までいかなかっ

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	【授業改善①】 ◇「授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。 【授業改善②】 ◇「授業では，学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。 ◇「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思う」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。	○職員研修を通して，各教科等の指導の工夫を行い，職員が課題とする児童の主体性と協働性の育成を図る。 ○各担任が授業改善シートを活用して自己評価を行い，授業力の向上を図る。 ○「分かる授業づくりの5つのポイント」の徹底を図る。また，児童アンケートを活用して，児童の学びの実態を把握するようにする。 ○一単位時間の授業の中で，必ず「話し合う活動」と「振り返りの活動」を取り入れることを全教科で取り組む。児童が，自分の意見を語ることができること，また，それを受容することができる学級の雰囲気を醸成し，児童のコミュニケーション能力の育成を図る。	B	【授業改善①】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○研究や授業実践を通して，児童が見通しをもって主体的に学習する姿を表出させることができた。また，一人一人の協働的な学びを高め，思考を深めることもできた。 ◆次年度は，今年度の課題を検証し，さらなる主体性と協働性の育成や，新学習指導要領に対応する取組の実践を行う必要がある。 【授業改善②】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○授業の中で必ず「話し合う活動」と「振り返りの活動」を取り入れることで，児童が自分の意見を語ることができるようになった。 ◆みんなの前で発表することにどうしても抵抗感をもってしまう児童に対して，どのような手だてを講じていくか工夫する必要がある。
	【補充学習】 ◇「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。	○基礎的・基本的な学習事項の定着や，活用力・応用力の育成に向け，ひまわり学習塾（裁量型）と関連させ，週3回放課後学習に取り組む。	B	【補充学習】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○放課後学習の実施により，基礎・基本的な内容の定着を図ることがほぼできた。 ◆朝自習や放課後学習等の成果と課題について精査し，充実を図る必要がある。
	【家庭学習】 ◇「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」ということについて，「1時間以上している」と回答をする児童の増加。	○宿題の出し方や内容，及び学年×10分間の家庭学習時間について，教職員で共通理解を図るとともに，各家庭に周知する。 ○学習時間のめやすや，自主学習の内容を記した青山小「家庭学習のススメ」を家庭へ配布し，中学年以上を中心に自主学習に取り組む。	B	【家庭学習】 ○質問紙14で「1時間以上している」と回答する児童の割合が達成目標に到達した。 ○自主学習に進んで取り組む児童が増えた。 ◆次年度へ向けて定着していない児童へ個別の支援を推進していく。
体力向上に関する取組	【授業改善】 ◇「体育の授業は楽しいですか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。	○体育授業の準備運動では，体力向上プログラムを活用しジャンプアップ運動等を行うようにする。また，25分間以上の運動量を確保する。 ○汗をかく体育授業を実践し，体を動かす楽しさや喜びが実感できるようにするとともに，児童一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う。	C	【授業改善】 ○評価項目について肯定的な回答をする児童の割合が，目標達成までは至らないものの増加している。 ○運動量の確保が図られるようになってきた。できるようになったことや達成の喜びがどの児童にも得られるように，授業改善をより一層進めていく必要がある。 ◆次年度は，校内研修の充実を図り，体育科授業のスタンダード化を目指す必要がある。
	【運動習慣】 ◇年間を通して，一校一取組として全校で体力づくりに取り組む。 【運動能力】 ◇新体力テストを通して，体力の伸びをとらえるとともに、成果と課題を把握する。	○新体力テストの結果をもとに分析し，全職員で児童の実態を把握するとともに，児童の実態に応じた一校一取組について検討・決定する。 ○　カード等を活用し，4～6年生において，新体力テストを6月と7月の2回実施する。	B	【運動習慣】 ○一校一取組として行った「持久走」の年間実施率が目標を達成した。 ○多くの児童が体育科以外でも運動やスポーツを行うようになり，体力が向上しつつある。 ◆次年度も継続し，日々の体力づくりに取り組む。 【運動能力】 ○カード等を活用し，意欲的に新体力テストに取り組むことができた。 ○新体力テストの分析を通して，本校の成果と課題を明らかにすることができた。 ◆今年度の新体力テストの課題である「持久力」や「瞬発力」の育成を，次年度の体育科授業や取組を通して図るようにする。
心の育ちに関する取組	【授業改善①（道徳）】 ◇「将来の夢や目標を持っていますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。 ◇「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。 【いじめ防止】 ◇いじめられた側の立場に立っていじめを積極的に認知するとともに，いじめ防止に取り組む。	○道徳の時間に，内容項目「希望と勇気，努力と強い意志」に関する教材を学期ごとに行い，重点的に取り組む。また，生活科や総合的な学習の時間において，地域人材をいかした交流活動を積極的に進める。 ○いじめを許さない学級をつくるため，道徳の時間に，内容項目「善悪の判断，自律，自由と責任」「親切・思いやり」「友情・信頼」「公正，公平，社会正義」を重点的に取り組む。 ○毎月，「こころのアンケート」を実施し，いじめの早期発見に努める。	B	【授業改善①（道徳）】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が増えた。 ○生活科や総合的な学習の時間において昔遊びや七輪体験等を行い，地域人材をいかした交流活動が進めることができた。 ◆次年度は，道徳や特別活動を通して，さらなる自尊感情を高める取組を推進する。 【いじめ防止】 ○アンケート等の活用により児童の心の状況をつかみ，いじめの早期発見につなげる等，積極的な生徒指導を推進することができた。
	【授業改善②（特別活動）】 ◇「自分には，よいところがあると思いますか」ということについて，肯定的な回答をする児童の増加。	○学級活動の計画的な実施をはじめ，特別活動を通してよりよい人間関係の育成を図る。「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に活用し，児童同士の人間関係を深める。 ○あいさつの指導とともに，各学級の学級活動や帰りの会で「友達のよいところみつけ」等，互いを認め合い，褒め合う取組を行う。	B	【授業改善②（特別活動）】 ○評価項目について肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○あいさつ指導や，「友達のよいところ見つけ」，「北九州子どもつながりプログラム」，オリンピック・パラリンピック教育等，互いを認め合う取組を行い，学校や学級の中に温かい雰囲気が広がっている。 ◆学級活動の充実を図る。また，互いを認め合い，褒め合う取組を継続するとともに，一人一人が自己有用感を味わうことのできる場づくりを積極的に行っていく。
学校組織と研修に関する取組	【授業力向上】 ◇〈学校アンケート〉「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」について，肯定的な回答をする教員の増加。 ◇〈学校アンケート〉「授業改善評価シートを活用した」について，肯定的な回答をする教員の増加。 ◇〈学校アンケート〉「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」について，肯定的な回答をする教員の増加。	○研究授業等を行い，自らの授業を振り返ることで授業力の向上を図る。 ○計画的に職員研修を行い，指導力の向上を図る。 ○指導主事を要請するとともに，個別の指導計画作成のための職員研修を行い，特別支援教育の充実を図る。	B	【授業力向上】 ○アンケート「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」で，肯定的な回答をする教員の割合が達成目標に到達した。 ○アンケート「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」で，肯定的な回答をする教員の割合が達成目標に到達した。 ○全学年でA研の授業研究を行い，教職員の授業改善に向けて取り組もうとする姿が見られた。 ◆授業改善シート活用のさらなる推進を図る。 ◆今後も引き続き，児童に対する共通理解や，個に応じた支援のために，全体会議やケース会議を行っていく。